

経営比較分析表（令和元年度決算）

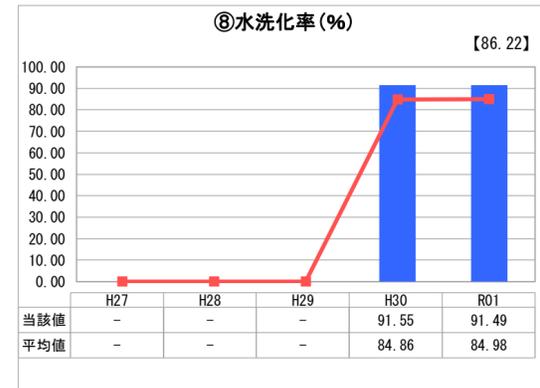
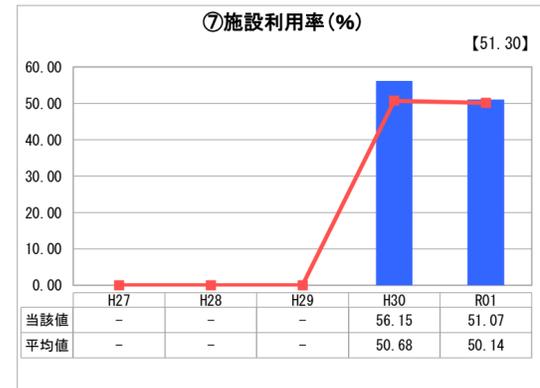
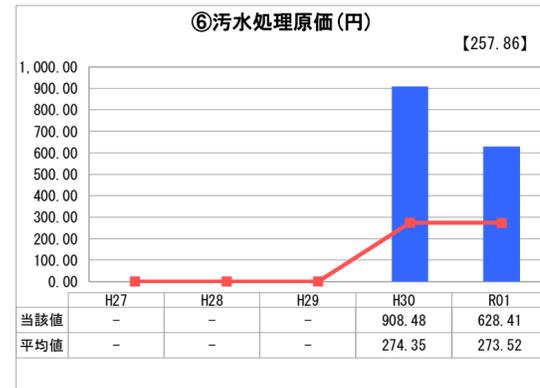
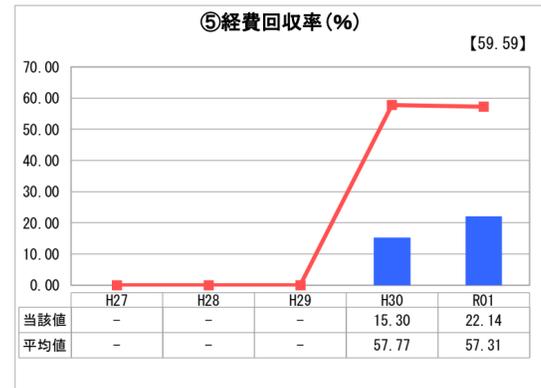
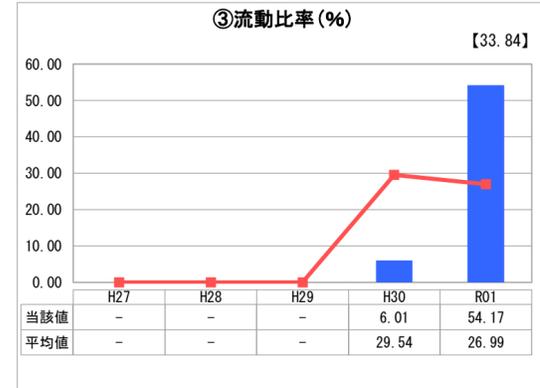
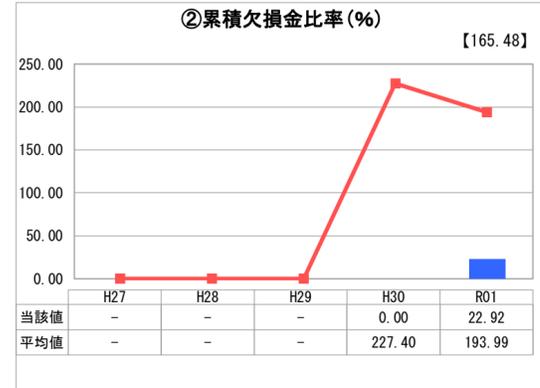
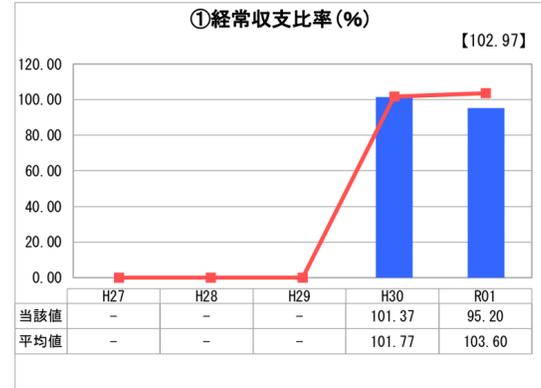
兵庫県 赤穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	54.51	4.69	88.23	2,453

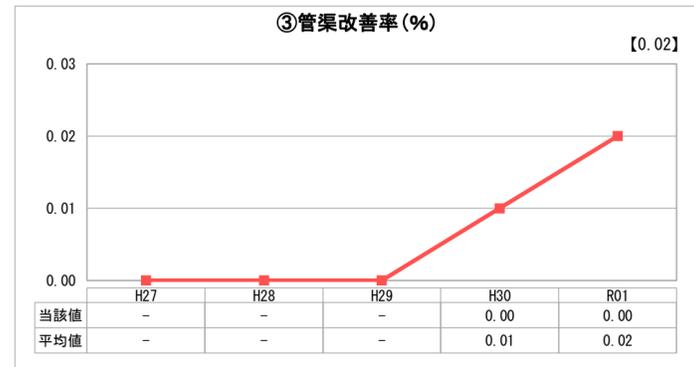
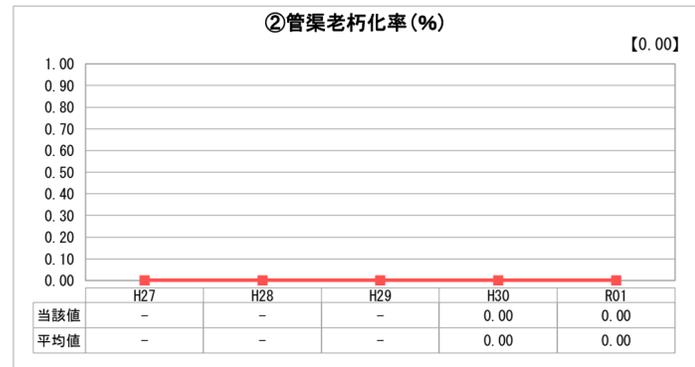
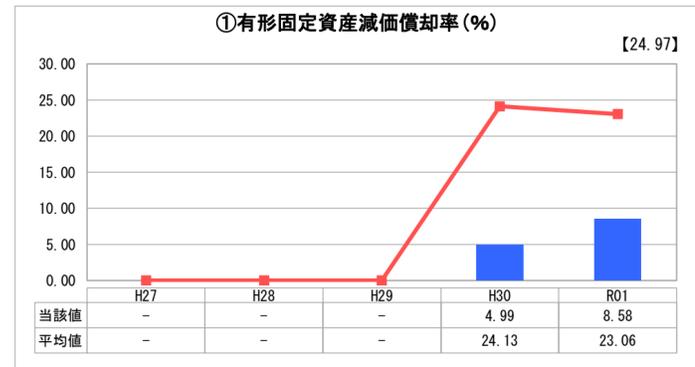
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,391	126.85	373.60
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,210	0.76	2,907.89

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の農業集落排水事業は、平成30年度から公営企業法の規定の全部を適用して、公営企業会計に移行した。
 初年度と比較すると、汚水処理原価と経費回収率に改善がみられたものの、全国平均及び類似団体平均と比較しても依然と隔たりが大きく、事業運営は依然として厳しい状況である。
 また、厳しい経営状況が続くことが予測されることから、経常収支比率と累積欠損金比率も悪化していくことが懸念されるところである。
 令和2年度に経営戦略の策定を予定しており、一層の経営の合理化・効率化を図っていくこととする。

注) ④企業債残高対事業規模比率の令和元年度数値が0となっているが、正しい数値は3,292.47である。

2. 老朽化の状況について

本市の農業集落排水事業は8処理区あり、最も早く整備した処理区は平成3年度の供用開始で、施設の老朽化が進行している。
 老朽化の進行は、公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業も同様であり、計画的な改築更新を行っていく必要がある。

全体総括

公共下水道事業並びに特定環境保全公共下水道事業同様、人口減少、節水機器の普及等を背景に、使用料収入の減少傾向は今後も続くものと予測している。これに対し、老朽化施設に対する改築更新の費用増加が見込まれるところである。
 この状況に対応するため、計画的な改築更新と維持管理に係るコストの縮減をより一層強化していきたい。
 なお、令和2年度において、農業集落排水の処理区の数8から6へ再編するため、将来的な維持管理費の縮減につながるものと考えている。
 また、農業集落排水事業は平成12年度に完了しているため、改築更新に係る新規債発行はあるものの、企業債残高は漸減していく見込みである。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。